

2022 年度 個人研究実績・成果報告書

2023 年 4 月 3 日

所属	商経学部	職名	教授	氏名	師尾 晶子
研究課題	古代ギリシア史・東地中海世界史研究				
研究キーワード	古代ギリシア史、ペルシア戦争、記憶と記録、聖域と記憶、歴史叙述	当年度計画に対する達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた		
関連するSDGs項目	4. 質の高い教育をみんなに	10. 人や国の不平等をなくそう	16. 平和と公正をすべての人に	該当なし	

1. 研究成果の概要

2022 年度も科研費基盤研究 C の研究課題を中心に研究を遂行した。ほかに関連する共同研究（基盤研究 A [分担者] 2 件と「メディア研究会」(大阪大学拠点)、経済研究所の研究プロジェクト)にかかわる研究をそれぞれ進めた。

研究成果の刊行物としては、まず国際誌に査読付き論文を掲載することができた。古代ギリシアの聖域のメンテナンスとそのためにくりかえされた奉納物のリサイクル(アップサイクル)に関する小論である。また前年度後半に原稿を提出していた共著の書籍 2 冊が刊行された。1 つは基盤研究 A(名古屋大学)の共同研究成果であるとともに、基盤研究 C のペルシア戦争の記憶の継承にかかわる論文、もう一つはアテナイの歴史をアテナイの資源と経済に焦点を当ててまとめたものである。概説書でありながら、これまでの政治史中心のアテナイ史とは一線を画した内容となっている。口頭報告も複数おこなったが、今後は論文発表を目指すことになる。

2022 年度夏、およそ 3 年ぶりにギリシアでの現地調査、およびロンドンとアテネで博物館調査を実施できた。11 月 11 日、13 日および 3 月 30 日の研究会報告の一部は、この時の実見調査にもとづくものでもある。これらについては、ペルシア戦争の遺産と記憶の継承に関わる単著執筆につなげていく予定である。

3 月 27 日開催の合同科研研究会は、2016 年以来、年 1 回ペースでセミクローズドの形で開催しているものである。古代末期におけるペルシア戦争の記憶にまつわる碑文を取り上げた。

3 月 30 日には、国際シンポジウム *Life and Death in a Lycian City: Urbanism and Ruralism in Tlos* (立教大学) に総合司会として参加の予定であったが、トルコにおける大地震の影響で先方の来日が困難となり、開催中止となった。

2. 著書・論文・学会発表等 (査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載)

【論文 (査読あり)】

Akiko Moroo, Keeping the Sacred Landscape Beautiful and Elaborate: Maintenance of Sanctuaries in Ancient Greece, *Journal of Ancient History and Archaeology* 9(1) 105-110, May 2022 (<https://doi.org/10.14795/j.v9i1.713>)

【著書・論文 (査読なし)】

共著：周藤芳幸編著『古代地中海世界と文化的記憶』山川出版社、2022 年 7 月 (第 9 章：記憶の継承の場としてのエフェベイア)

共著：長谷川岳男編著『はじめて学ぶ西洋古代史』ミネルヴァ書房、2022 年 10 月 (第 3 章アテナイ)

【学会発表等】

師尾 晶子「「パルテノン」とアテナ女神聖財財務官の聖財記録をめぐる覚え書き-ファン・ロークハイゼン (J.van Rookhuijzen) の研究めぐって」2022 年度第 1 回パルテノン科研研究会、2022 年 4 月 23 日 (zoom)

Akiko Moroo, *Two Acharnai Stelai Revisited: SEG 21.519 and RO 88*, Epigraphy Workshop (千葉商科大学 付属図書館)、2022年11月11日

師尾 晶子「アカルナイのデーモス決議とディオンの奉納碑-SEG 21.519 と RO 88」2022年度古代ギリシア文化研究所秋季研究集会(千葉商科大学丸の内サテライトキャンパス、ハイブリッド)2022年11月13日

Akiko Moroo, *Tombs for All to See: Mortuary Landscape and the Local Identity in the Hellenistic and Roman Lycia*, Kyoto University Ancient History Seminar: *Diving into Asia Minor* (京都大学楽友会館、ハイブリッド)、2023年2月4日

師尾 晶子「IG VII 53 とメガラにおけるペルシア戦争の記憶の継承」科研費合同研究会【歴史叙述の場と記憶】(zoom)、2023年3月27日

3. 主な経費

学会費の支払い(史学会・歴史学研究会・西洋古典学会・地中海学会・古代ギリシア文化研究所・西洋史研究会・古代世界研究会)

研究に関連する書籍(古代史および古典古代の受容に関する研究書など)

学術誌の購入(*Zeitschrift für Papyrologie und Epigraphik*, *Hesperia*, *Chiron* など)

研究活動を補助するオンラインギリシア語資料(TLG)利用料、英文校正オンラインサービス、academia.edu などの使用料およびクラウドサービスのサブスクリプション費用など

4. その他の特筆すべき事項(表彰、研究資金の受入状況等)

【科学研究費】

基盤研究C、2020-2023年度(代表:師尾晶子)ペルシア戦争の遺産に関する通時的総合的研究(20K01060)

基盤研究A、2018-2022年度(研究分担者)古代地中海世界における知の動態と文化的記憶(18H03587)

基盤研究A、2018-2021年度(延長)(研究分担者)パルテノン彫刻研究-オリエント美術を背景とする再解釈の構築(18H03566)

【経済研究所】

労働観の表彰と変遷に関する比較歴史社会学的研究(代表:荒川敏彦、研究分担者)2022-2023年度

【その他の活動】

公益財団法人 史学会 評議員

西洋古典学会 常任委員(2022年6月で任期満了)・編集委員(2023年3月で任期満了)・委員(2022年6月から)

地中海学会 常任委員・編集委員

古代世界研究会 委員(2022年9月まで)

古代ギリシア文化研究所 役員(会計)